



今年の教区の目標

神に希望の錨をおろすなら
すべては祝される

〒902-0067 那覇市安里3-7-2

カトリック那覇教区本部

TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474

発行人 W.F.バートン司教 1部40円

<http://www.naha.catholic.jp/>

(1) 2025年 8月1日 (毎月1日発行) カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ 第801号 (8月号)

日本カトリック司教団核兵器廃絶宣言2025

「核兵器の破壊的な力を体験したわたしたちには、その貴重な証人として、核兵器の廃絶を訴え続けていかなければならない責任があります」(「平和への決意 戦後五十年にあたって」)。

日本カトリック司教団は、戦後八十年を迎えるにあたり、唯一の戦争被爆国の司教団として、広島・長崎の被爆者と市民が抱えてきた重い歴史と痛みを深く胸に刻み、核兵器廃絶に向けた強い決意をここに宣言します。

広島、長崎では、一九四五年の原爆投下により多くの生命が失われ、今なお多くの人がその苦しみと後遺症を背負って生きています。

この悲劇を繰り返してはなりません。核兵器の存在は、神がきわめてよいものとして造られたこの世界と人間の尊厳をおとしめるものであり、すべてのいのちを脅かす深刻な脅威です。核爆発の際に発生する放射性降下物(フオールアウト)による被害や広範囲の環境破壊は、地球規模で生態系に甚大な悪影響を

及ぼします。また、被爆者により広義で捉える「グローバル・ヒバクシャ」の視点からは、核実験やウラン採掘などに関連する被害者の存在も忘れてはなりません。したがって、核兵器の開発、実験、製造、保有、使用は、倫理的に許されるものではありません。

核抑止力という考え方は、紛争解決における有効な手段とはいえないばかりか、「安全保障のジレンマ」に陥ることで、むしろ世界を核戦争の危機へと向かわせるものです。このような考えをわたしたちは決して容認できません。

わたしたちは、武力による威嚇を国家間の紛争解決の手段として否定する日本国憲法の精神を重んじ、平和的対話を通じて共存の実現に向けて働きかけてきました。いかなる紛争下においても、核兵器を威嚇手段として用いることは、国際法および国際規範の観点からも、決して容認されるべきではありません。

わたしたちは、キリストの福音に従い、対話を通じた平和の実現を目指し、すべての

人の生命と尊厳を守るために、核兵器を完全廃絶するよう強く求めます。

わたしたち司教団は、以下の行動を続けます。

被爆の実相を世界中に伝え、核兵器の非人道性を訴え続けます。

核兵器廃絶を目指す国内外の運動と連帯し、その実現に向けた行動を推進します。

核兵器禁止条約(TPNW)の理念を支持し、日本政府が一刻も早くこれを署名・批准するよう働きかけていきます。

平和教育や啓発活動を通じて、次世代に平和の理念を引き継ぎます。

世界は核兵器によらない平和を選択できるはずで、核兵器廃絶を望む皆様に呼びかけます。すべてのいのちを脅かす核兵器によってではなく、すべてのいのちを尊ぶ神の愛の実践によって、神との、人々との、自然とのわたしたちの関係を調和のうちに保ち、平和な社会を実現するために祈り、力を尽くしてまいります。

二〇二五年六月十七日

日本カトリック司教団



日本カトリック司教団 核兵器廃絶宣言2025

Japan Catholic Bishops' Declaration on the Abolition of Nuclear Weapons 2025

Japan Catholic Bishops' Declaration on the Abolition of Nuclear Weapons 2025

“Having experienced the destructive power of nuclear weapons, we have a responsibility as valuable witnesses to continue to advocate for the abolition of nuclear weapons.” (Resolution for Peace: On the 50th Anniversary of the End of the War).

As we mark the 80th anniversary of the end of World War II, the Catholic Bishops' Conference of Japan, the only bishops from a country to have suffered atomic bombings in war, carry deeply engraved in our hearts the heavy history and pain that atomic bomb survivors and citizens of Hiroshima and Nagasaki have suffered, and hereby declare our strong commitment to the abolition of nuclear weapons.

In Hiroshima and Nagasaki, many lives were lost in the atomic bombings of 1945, and many people still live with the suffering and aftereffects of the bombings. This tragedy must not be repeated.

The existence of nuclear weapons is a serious threat to all life, as it degrades the dignity of human beings and the world that God created to be very good. The damage caused by fallout and the widespread environmental destruction caused by nuclear explosions have an enormous negative impact on global ecosystems.

Furthermore, we must not forget the existence of victims related to nuclear testing and uranium mining, the “Global Hibakusha” [hibakusha=atomic victims] who force us to take a broader view of atomic survivors. Therefore, the development, testing, production, possession and use of nuclear weapons are ethically impermissible.

The concept of nuclear deterrence is not only an ineffective means of resolving conflicts, but it also plunges the world into a “security dilemma” that in reality pushes the world toward the brink of nuclear war. We cannot tolerate this kind of thinking.

We respect the spirit of the Constitution of Japan that rejects the threat of force as a means of settling disputes between nations and have worked toward the realization of coexistence through peaceful dialogue. The use of nuclear weapons as a means of intimidation in any conflict situation should never be tolerated under international law and norms.

As followers of the gospel of Christ, we strongly urge the complete abolition of nuclear weapons in order to achieve peace through dialogue and to protect the life and dignity of all people.

We bishops commit ourselves to do the following:

We will continue to convey the reality of the atomic bombings to the world and declare the inhumanity of nuclear weapons;

We will stand in solidarity with domestic and international movements for the abolition of nuclear weapons and promote actions to achieve this goal;

We will support the principles of the Treaty on the Prohibition of Nuclear Weapons (TPNW) and urge the Japan government to ratify it as soon as possible;

We will pass on the philosophy of peace to the next generation through peace education and awareness-raising activities.

The world should be able to choose peace without nuclear weapons. We call on everyone who wants the abolition of nuclear weapons. Let us pray and do our utmost to maintain our relationship with God, with people and with nature, and to realize a peaceful society, not through nuclear weapons that threaten all life, but through the practice of God's love that honors all life.

June 17, 2025

Catholic Bishops' Conference of Japan

2025 年 7 月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時: 2025年7月1日(火) 10:00~12:00 於・安里教区センター

司会はヨアキム神父が担当、開式の祈りはウェイン司教が担当した。

1. 報告及び連絡事項

- ・ 前回(6月会議)の報告を新田が行い、承認された。
- ・ 出張、休暇、研修等の不在予定の報告が行われた。
 - ー フランシス神父、7/1~8/1、休暇のためベトナムへ。
 - ー リカルド神父、7/1~7/22、ミッションアピールのためアメリカへ。
 - ー クレーバー神父、7/3~8/4、休暇のため北アメリカへ。
 - ー 紙崎神父、7/5~7/7、長崎へ。
 - ー ナビーン神父、8/2~8/8、カプチン会アジア地区会議のためインドネシアへ。
 - ー ウェイン司教、8/5~8/6、広島。8/9~8/10、長崎へ。
- ・ 6.23沖縄慰霊の日の取組について各担当者から感想と反省点、今後の課題が述べられた。また、巡礼に参加した司祭たちの発言も求められた。
- ・ ウェイン司教: 準備に携わった司祭たちや教区スタッフの皆に感謝が述べられた。参加した日本の司教団からも4人の司教が巡礼の行程を歩き通したことが伝えられた。
- ・ ブイ神父: 小祿教会の主任司祭と信徒たちの協力に感謝が述べられた。典礼担当のマイケル神父や巡礼の休憩所で飲み物などの準備を担当したヨアキム神父、救護車で巡礼をサポートしてくれた曾根夫妻、巡礼の先導や後方支援に当たった青年たちの様子などが報告された。
- ・ マキシム神父: 小祿で無事開催できたこと、ブイ神父とマイケル神父の協力に感謝が述べられた。
- ・ マイケル神父: 無事に6.23の平和巡礼を終えることができたことに感謝したい。年齢が上がって、歩くペースが遅くなったり、歌声が小さくなっているようにも感じた。
- ・ 津波古事務局長: 前晩からの司教団への食事や接待、移動手段の手配や巡礼に参加できない司教たちのための戦争体験者話を聞くなどの別メニューの準備や詳細が報告された。
- ・ ボスコ神父: 炎天下の巡礼なので、魂魄の塔に皆のためにテント等が設置出来たら良いと思った。
- ・ デニス神父: カトリック中高の生徒たちが巡礼に合流させてもらった。こういう取り組みは、平和の心を次代に繋いでいく大切な取組と思う。
- ・ ウェイン司教: 戦後80年に当たる今年、沖縄だけでなく、広島、長崎へも日本の司教団は集って平和祈念のミサを捧げる。菊池枢機卿の平和メッセージが日本語と英語で出されているので、小教区で掲示して、信徒たちが読むことができるよう、司祭たちは配慮して欲しい。
- ・ その他、6.23の今後の課題も含め、司祭たちから様々な意見が出され、検討していくことになった。
- ・ ウェイン司教から定例司教総会の報告があった。戦後80年を迎え、司教団の平和メッセージが発表されたが、そこには広島、長崎の原爆のことだけでなく、地上戦が行われた沖縄のことにも言及されたことが報告された。また、司教たちの担当委員会の変更があり、ウェイン司教は部落差別委員会の委員長となったことが報告された。その他、司祭不在時の典礼に関する新しい形式についての討議や、アジアの司教協議会への日本の司教団の担当司教たちの選任、中央協議会の改革などが討議された。
- ・ その他、小教区会計についての注意事項が教区事務局から要請された。会計管理上の問題があり、小教区で法人クレジットカードを作ることはできない旨、司祭たちへ注意が促された。
- ・ 3教区合同黙想会の収支報告書等が報告された。また、参加者の意見交換がなされ、次年度的那覇教区での開催にもシノドス的な分かち合いの時間を取り入れるなど、黙想会の持ち方に新たな手法の模索を検討することが合意された。次回会議に提案事項を持ち寄るよう申し合わせた。
- ・ 教区聖歌隊のカンタ・カトリカについて、メンバー募集の呼びかけを小教区で行ってもらえるよう、担当の石垣助祭から要請が行われた。

2. 審議事項

- ・ 安里教会のガジュマルの大木の根が、隣の保育園の下水管に入り込んで悪影響が出ており、木を伐採すべきかどうかの調査をしたことが報告され、3年前に根伐りしたガジュマルの木の根が新たに地表から細い根を這わせていることがわかり、全体的な伐採の必要はなくなったことが報告された。なお、再度行う「根の誘導施肥」については、押川名誉司教の寄付によって行われることとなった。
- ・ 典礼担当のマイケル神父から、集会祭儀のためのアンケートが全教区に呼び掛けられており、9月の全国典礼研修会で活用するので、ご意見を送ってくれるよう要請が行われた。
- ・ 8月の司祭会議は休みとなるので、サマーキャンプ中、司祭たちは参加する子供たちやヘルパー等を激励するために教会ビーチを訪問されるよう要請があった。
- ・ 司教予定について、マーシーさんから報告が行われた。8/3サマーキャンプ 10時のミサ主式。8/5~6広島。8/9~10長崎。8/13サマーキャンプ 10時のミサ主式。8/17首里教会公式訪問。8/24与那原教会公式訪問。8/31普天間教会公式訪問。

※次回司祭助祭拡大会議は9月2日(火) 午後3時から、ミッションビーチで開催される。

2025年7月27日 承認: ウェイン・フランシス・パーント司教 記録: 新田 選

「平和を紡ぐ旅 ―希望を携えて―」 戦後 80 年司教団メッセージ

平和を望むすべての皆様、若者の皆様へ

はじめに 今年、わたしたちは戦後 80 年を迎えました。この節目の年にあたり、あらためていのちを奪われた人々、さまざまなかたちで尊厳を侵害された人々、また破壊された自然環境を心に留め、祈りをささげます。人の生涯と同じほどの年月を経て、わたしたちは今、人間の尊厳を大切にすることだという思いを、平和を実現しようという願いを、どのように次の世代へと受け渡していくのでしょうか。25 年に一度カトリック教会で祝われる聖年を迎えた今年、平和な世界を造る希望をもって皆様と、とくに若者の皆様と、ともに歩みを進めていきたいと願っています。

戦後 80 年を経て 2024 年 10 月に日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）がノーベル平和賞を受賞しました。「核兵器は極めて非人道的な殺りく兵器であり人類とは共存させてはならない、すみやかに廃絶しなければならない」。受賞に際し行った演説で代表委員の田中熙巳氏が語ったことばは世界の人々の心に届き、核廃絶について考えるきっかけとなったことでしょう。そのことばには、80 年にわたって語り続けてこられた重みがありました。あの戦争を経験した多くの人が、日本でも、世界でも、80 年の間その経験を語り伝え、平和のために行動してこられたのです。80 年が経過した今、実際に戦争を経験した人は非常に少なくなっています。だからこそ、わたしたちは歴史的事実に誠実に向き合い、学び、記憶にとどめ、次世代に伝え、平和のために生かしていかなければなりません。教皇フランシスコは 2019 年広島にて次のようにいわれました。「思い出し、ともに歩み、守る。この三つは倫理的命令です。これらは、まさにここ広島において、よりいっそう強く、より普遍的な意味をもちます。この三つには、平和となる道を切り開く力があります。ですから、現在と将来の世代に、ここで起きた出来事の記憶を失わせてはなりません」。この意味で、若者の皆様が広島や長崎、そして沖縄に、巡礼や平和学習の旅をなさるのはとても大切な、意義のあることです。わたしたちはアジア・太平洋戦争以前から、日清・日露戦争や植民地支配を含むさまざまな行為によって、日本が近隣諸国に対し多大な苦しみを与えてきたことを忘れてはなりません。80 年前、戦争終結に至る歴史の流れの中で、カトリック教会が平和の実現に求められる役割を十分に果たせなかった側面があります。明治以降、日本国が天皇を中心とした国家体制を整える中で、カトリック教会は忠君愛国の姿勢を示そうと苦心しました。その過程で、正戦論を用いて日本の戦争を正当化し、支持する立場を取ったのです。こうした過去を真摯に受け止め、回心し、次世代を担う人々とともに平和への歩みを進めていきたいと思います。

世界の今 多くの市民による 80 年間の平和を目指す取り組みに並行して、国際連合とその加盟国は歩みを続けてきました。しかし平和を希求する国連憲章その他さまざまな規範は都合よく解釈され、また無視されることによって、世界は今、非道な戦争を目の当たりにしています。ウクライナとロシア、パレスチナとイスラエルをはじめとする中東、またミャンマーやアフリカ諸国でも、日々、多くの人が殺され、目を覆いたくなる惨状が続いています。戦争は、人道的介入、予防、防衛などを建前にし、正義の名のもとに行われます。しかしそれらは自らを正当化するための拡大解釈であって、その結果多くの民間人が被害に遭い、環境が破壊され、さまざまなリスクが拡大するのです（回勅『兄弟の皆さん』258 参照）。さらに、実際に戦闘行為を行っている国以外にも、戦争にならないように、また戦争になったときのためにと、軍備を強化する国が増えています。日本も同じで、日本国憲法 9 条により従来「できない」とされてきた集団的自衛権の行使容認、他国領土を攻撃できる長射程ミサイルの配備や武器輸出の解禁、自衛隊基地の新設、防衛費の大幅増など、国是としてきた平和主義がかすんでいます。沖縄島をはじめ南西諸島においては、「防衛」の名のもと、次々とミサイル部隊が配備されています。80 年前の沖縄戦では、9 万 4 千人余りの一般住民を含む、20 万を超える人のいのちが奪われました。沖縄の人々は、その恐ろしい戦争の記憶、そして戦後の米軍基地に関連するさまざまな暴力事件に苦しみながらも、あくまで非暴力による平和アピールを続けています。戦争を二度と繰り返さないように、性暴力を含む基地由来の被害が二度と起こらないように、そう叫び続けているにもかかわらず、今また、ミサイル基地等が目の前に作られているのです。沖縄の年配のかたがたの間には、「戦争の準備をしている」「戦争前と同じ歩みをしている」、そうした声が聞かれます。戦争そのものの恐ろしさ、罪深さは、多くの人にとって明らかですが、戦争へと人々を導いた日常における思想や価値観の植えつけが、知らぬ間に世論を戦争に向けて突き進むものへと変えていくことを、80 年前の経験から学ばねばなりません。今の日本は、果たして平和への道を進んでいるのでしょうか。

核兵器の廃絶に向けて 教皇フランシスコは 2019 年広島で「確信をもって、あらためて申し上げます。戦争のために原子力を使用することは、現代においては、これまで以上に犯罪とされます。（5 ページへ続く）

人類とその尊厳に反するだけでなく、わたしたちの共通の家の未来におけるあらゆる可能性に反する犯罪です。原子力の戦争目的の使用は、倫理に反します。核兵器の所有は、それ自体が倫理に反しています」といわれました。日本被団協のノーベル平和賞受賞は、世界が核兵器使用の脅威の中で「核抑止」から抜け出し、核兵器廃絶に向かうための大きな一歩です。核兵器は、爆発時だけでなく、その後の長い時間にわたる健康被害や社会的差別、そして環境破壊を引き起こすことを、被爆国に生きるわたしたちは経験してきました。日本の司教団は戦後 50 年にあたって、強い決意のうちに宣言しました。

「核兵器の破壊的な力を体験したわたしたちには、その貴重な証人として、核兵器の廃絶を訴え続けていかなければならない責任があります」（「平和への決意戦後五十年にあたって」）。

核兵器廃絶に向けた取り組みは、広島・長崎と米国の司教たちとのパートナーシップによるネットワークなどにおいて広がりを見せています。今回の受賞が、核兵器のない世界に向けた希望の灯となるように祈るとともに、世界と日本政府がこの「時のしるし」を深く心に留め、一刻も早く核兵器禁止条約の署名・批准に向けて行動することを強く求めます。真の平和とは聖書が語る「平和（シャローム）」は、もともと「欠けたところのない状態」という意味をもつことばです。その意味で、平和は、単に戦争や争いがない状態なのではなく、この世界が神の前に欠けたところのない状態、すなわち神がきわめてよいものとして造られたこの世界のすべてが、それぞれ尊重され、調和のうちにある状態のことだといえるでしょう。ですから、平和のために働こうとすると、わたしたち自身の神との関係、人々との関係、自然環境との関係を振り返り、神の前に望ましい関係であろうと回心し、対話することなしには前に進めません。平和とは、核兵器や武力の均衡によってもたらされるものではないのです。

希望をともにして歩む 今年、カトリック教会は聖年を祝っています。これは、旧約聖書のレビ記（25 章 10 節参照）にある「ヨベルの年」にちなんだ行事です。レビ記によるとこの年は、畑を休ませ、貧困などの理由により売却を余儀なくされた土地が返却され、雇い人となった同胞が解放され、負債が免除されたりする解放の年で、50 年に一度巡ってきます。カトリック教会では、25 年に一度聖年を実施し、神の前にすべての人が尊い存在であることを再確認し、権利を侵害されているならばその状態を解消し、搾取されているならばそれを返済し、負債から解放されるよう働きかけています。まさに、欠けてしまった状態から、本来の状態に戻す、平和を実現するための年といえるでしょう。

前教皇フランシスコは、今年の聖年のテーマを「希望の巡礼者」とし、「聖年が、すべての人にとって、希望を取り戻す機会となりますように」と招いています。また、新教皇レオ十四世は最初の祝福の際、「あなたがたに平和があるように……。この平和のあいさつが皆さんの心に入りますように。皆さんの家庭に、どこにいたとしてもすべての人に、すべての民族に、すべての地に届きますように。あなたがたに平和があるように」と呼びかけられました。

平和を望むすべての皆様、若者の皆様、この 80 年の間、幾世代にもわたって受け継がれてきた平和への歩みを自らのものとし、希望を携え、平和を紡ぐ旅をともに歩み続けてまいりましょう。

2025 年 6 月 17 日 日本カトリック司教団

ご協力のお願い

1949 年、ほとんど信者が残っていなかった沖縄で再開されたカトリック教会は、1973 年 2 月 11 日に那覇教区となり宣教活動を続けています。これまで多くの司祭や修道者、各修道会、信者の皆様に那覇教区で活動して頂きました。聖年を迎え「那覇教区の活動を振り返る機会があったらいいね！」の声があり、その 1 つの手段として写真展を企画しております。そのために各家庭に保存されている「写真」を提供して頂きたいと思っております。対象になるのは教区の日、献堂式、叙階式、誓願式、大聖年関連、聖体大会、クルシリオ、マリア祭、平和巡礼、聖書週間作品展、聖書展、講演会、カトリック書道展、黙想会、研修会、サマーキャンプ、女性の会、青年会、壮年会、県民クリスマス、キリスト教一致祈祷集会、その他地区主催の関連行事に関する写真がありましたらご提供頂きたいと思えます。尚、対象のものがわかりにくい場合は、お気軽にお問合せ下さい。写真の裏には撮影日付、お名前とご連絡先、返却の要・不要をご記入下さい。希望の巡礼者として未来へ動き出すためのきっかけになればと思います。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

募集期間：5 月 1 日から 8 月 30 日

連絡先 カトリック泡瀬教会 山田圭吾 (090-1344-5702)

写真受付 カトリック文化センター (098-868-6469 担当・崎山利香)

声 角 笛

二〇二五年 聖年の巡礼の旅②

コザ教会 金城 愛子

夕食後には自己紹介を兼ねて懇親交流会で分かち合いの時間を持ちました。企画から実現まで紆余曲折があり、実現した巡礼の旅でした。それぞれが「巡礼に参加した経緯」や「この企画に感謝する」とか「来てよかった」との喜ばしい声がありました。

一方で「二五〇余年に渡るキリシタン迫害のなかで転宗や改宗を装い、なりを潜めて二五〇年の長い歳月を各地に潜伏して父祖代々の信仰を守り伝えて来たのは、世界でも類のないことであり、聖職者はこれをもっとアピールして行くべきと思います」との厳しい指摘もあり、考えさせられました。

巡礼四日目。福江教会（イエスのみ心に捧げられた教会、聖年の巡礼指定教会）で司教様主司式のミサが捧げられました。この教会は一九六二年の大火災でも奇跡的に焼失を免れました。下五島地区では市内の教会の中心

的な役割を担っているとのこと。次は堂崎天主堂（一九〇八年日本二十六聖人に捧げられた教会）への巡礼でした。

禁教令が解かれた後フランス人宣教師によって最初の木造の天主堂が建てられました。一九〇八年に現在のレンガ造りの教会堂が完成したが一九六九年巡回教会となりました。

一九七四年県指定の文化財に指定されて五島のキリシタンの受難の歴史を語る資料館となりました。

次に、五島列島福江島の西にある井持浦教会（ルルドの聖母に捧げられた教会）の訪問でした。初代は明治三〇年建立の五島で最初の煉瓦造教会で日本最古のルルドがありました。

さて、今回、最後の巡礼は水の浦教会（被昇天の聖母に捧げられた教会）でした。教会の歴史は、江戸時代末期に大村藩領から移住した潜伏キリシタンのうち、五人の男性とその妻子らの移住に始まります。彼らは仏教徒を装いながらひそかにキリスト教を信仰しました。

信者たちは、禁教の高札撤去から七年後の一八八〇年に湾を一望する小高い丘の上に最初の教会を建立しました。現教会は

一九三八年当時雲仙に建てる予定だった教会が諸般の事情によりとりやめとなり、その資材をそのまま買い受けて建替えられました。白亜の優美な教会です。庭園で十字架の道行の祈りを捧げました。

四日目は訪れた教会で祈りを捧げた後、福江空港へ。乗り継ぎ先の福岡空港で巡礼の旅の解散式を行いました。

総じて、今回訪問した教会堂についてはすべて荘厳な祭壇や壁面の装飾に感じ入りました。五島市文化観光課の資料によると、「信仰を守るために、すべてにおいて長崎の外海地区から五島へやってきたキリシタンたち。五島の教会は苦難を乗り越えた人々の信仰の証なのです。」

五島列島には全部で五一の教会堂があります。キリスト教が許された後、その子孫たちが信仰の証として教会を五島の各地に建てた」とありました。しかしながら、ガイドによると信者数の減少や高齢化で、巡回教会になったり、教会維持が困難になったり世界遺産登録に活路を見出しと現状は厳しい状況にあるとのこと。私達の教会の行く末に思いを馳せました。今回は、厳しい中にあっても

信仰を守って来た信者達のその信仰の心に触れることが出来た巡礼の旅であり、私たちの信仰心を顧みる機会となった旅でした。二〇二五年巡礼聖年の年に、しかも聖母月に巡礼指定教会（五か所）を訪問し、祈りを捧げることができたことに感謝します。

最後に、二〇二五年聖年巡礼者として、特に、聖母の騎士会の恵みに感謝します。私たち会員は今後も、創立者聖コルベ神父の精神「聖母を通してイエスの御心へ」と取り次ぎを願い、病人の快復、死者の永遠の安息、世界平和のほか依頼を受けた意向ために祈りながら、騎士会の信心会の集いを続けていきたいと思ひます。

追記。巡礼三日目は雨天確率が一〇〇％で風もあり、予定通り帰沖できるか心配でした。聞くところによると前日までの二日間、福江空港では航空機の欠航が続いていたそうです。

四日目はみごとに晴れて無事に那覇空港に到着し、所期の目的は達成されました。なお、この巡礼記を執筆するにあたり大部分を（株）パラダイスさんの巡礼資料を引用しました。

仲里幸子さんの訃報に寄せて

去る 7 月 28 日に帰天された仲里先生の訃報を受け、沖縄県の看護行政に多大な貢献をされた先生を思い起こすと共に、首里教会に所属し、教会員として残された先生の足跡にも思いを寄せずにはられません。先生は真栄原のカトリック小、中の初代校長としても御尽力下さいました。カトリックの信仰を持つ後輩の看護師たちに呼び掛けて、カトリックの看護師たちの集いも度々呼び掛けて来られました。先生を偲び、その安息を心よりお祈りいたします。（首里教会信徒有志）

訃 報

与那原教会

ジョージ 金城 昭夫様

二〇二五年七月二日帰天

名護教会

バルナバ 稲嶺盛保様

二〇二五年七月十八日帰天

享年九十一

アンジェラメリチ 長山瑞樹様

二〇二五年七月二十一日帰天

享年十八

首里教会

カタリナ 仲里幸子様

二〇二五年七月二十八日帰天

享年九十一

教区 NEWS 教会

平和巡礼に参加して

具志川教会

今年の6・23「慰霊の日」は、多くの司教様のご出席を賜り、特に意義深いものとなりました。平和を訴え、戦争と紛争を「二度と繰り返さない」という理念を誓うという共通の思いのもと、共にミサを捧げることができ、大変感銘を受けました。

三番目のコースまでは歩きましたが、足に痛みを感じ始めたため、車に乗ることにしました。痛みはありましたが、平和という崇高な大義のために、痛みに耐える価値はありました。本当に忘れられない経験となりました。
(ロドニー神父)

サマーキャンプ準備作業

サマーキャンプを目前に、各小教区から児童の父兄や、ヘルパーに当たる青年たち、調理を担当する女性の会の皆さん、司



祭たちと修道者たちが集い、サマーキャンプのゲート設置、テントの設置、台所の掃除等、準備作業が行われた。夏休みに入って、キャンプを待ちわびる児童たちも一緒に、楽しく汗を流した。





※完成イメージ

ご支援は下記の①または②より受付中



①クラウドファンディング ←支援はこちらから

皆さまの温かいご支援を
よろしくお願いいたします。



愛児幼稚園は創立71周年を迎えました

長年にわたり、子ども達の健やかな成長を見守ってきた園舎も、老朽化が進み、安全性や快適性に課題が生じています。子どもたちがこれからも安心して過ごせるより良い教育環境を整える為現在、新園舎建築を進めており、2025年11月の完成を目指しています。

このたび、新園舎建築のためのクラウドファンディングが始動しました。昨今の厳しい情勢の中、大変恐縮ではございますが、未来を担う子どもたちのために、皆さまの温かいご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

愛児幼稚園 園長：知念 砂子

②口座への振り込み(1口3,000円)

銀行名：ゆうちょ銀行

口座名義：ガク) カトリックガクエン アイジヨウチエン

店番：708 店名：七〇八 記号：17050

種別：普通預金 口座番号：19879671

(ゆうちょ以外の口座から振り込む場合：1987967)

※領収書ご希望の方はお電話(098-834-2731)

またはaijicf1954@gmail.comまでご連絡ください。

工事の進捗状況など
園HPまたはInstagram
を要チェック!!



学校法人カトリック学園
愛児幼稚園

〒900-0022

那覇市樋川1-13-10

TEL：098-834-2731



NPO 法人ぶどう園の会

訪問看護ステーション クララ



TEL&FAX:098-937-5001

住所 沖縄市泡瀬2丁目37-15

・基本受付 月曜日～金曜日(申込、相談など)

・営業時間 8:30～17:30

・営業日 24時間365日(緊急対応含む)

那覇教区子どもと 女性の権利を擁護するデスク



相談窓口

☎098-863-2020

火・水・木

13:00～17:00



葬祭の
「やすらい企画」

私たちは故人とご遺族の意向
を最優先に考えます。何でもご
相談下さい。

那覇市首里鳥堀町4-57-3

TEL&FAX:098-885-8205

<http://w1.nirai.ne.jp/yasurai>

E-mail:yasurai@nirai.ne.jp

24時間
受付

～ご遺族の心をもって奉仕する～
そうてんしゃ

葬 典 社

*創業30数余年・・・。

*皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるための
お手伝いをさせていただいております。

*ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。

「ゆうなの会」会員募集中です。

ひ が たかしげ
(実務担当) 比嘉 高茂

24時間
受付

てんごく

☎098-853-1059

